



## 府からの提案 組合の取り組みの成果！ 府採用試験の受験等は職免適用に！！

### 組合で長年要求・交渉してきた成果

府教委は、大教組に「府教員採用試験受験に関するサービスの取り扱いについて」を提案。

府教員採用試験受験については、職免を適用するとしています。

組合との協議を経て、6月20日からの実施と提案しています。

従来、講師の先生方は、正規教員と同じように授業、担任業務をこなして、学校を支え、採用試験の準備や勉強の時間さえままならない状態で受験していた上に、夏休みも含めて平日の受験では、貴重な「有給休暇」を取得して受験することが求められていました。

大教組や枚方教組は以前から採用試験受験は職免などの適用をするべきと強く要求してきたものが、実現したのになります。

### 市教委でも早急に必要な対応を 市費講師の受験等に職免適用を、

#### 採用試験の勉強・準備で、夏休み等の自宅での研修の積極的な適用を

府教委は今回の提案に際して、その理由として、「講師等が採用選考を受験しやすい環境を整え、受験者の確保を図るため」と明確に述べています。

今回の府教委の提案には、市の制度で任用される市費講師は対象とされていません。

しかし、府教委の提案趣旨からしても、枚方市・教育委員会としても、積極的に市費講師にも採用試験受験を職免とすべきであり、試験当日以外の諸手続き、面接等で委員会に出向く場合でも適用されるべきです。

さらに、「受験しやすい環境を整える」ためにも、夏休みなどで、採用試験準備、勉強のための、職場を離れての自宅等での研修を積極的に認めるように、市教委が率先して校長に示すことが求められます。

枚方教組は、引き続き講師の先生たちの権利や待遇改善のために、職場の声をもって、一緒になって市教委に強く要求して実現のために取り組んでいきます。

## 4月から「子の看護休暇」参観、運動会等にも拡大

組合の要求で実現した、子の看護休暇の適用範囲の拡大(府費教職員)。

従来大阪府では、子どもの病気、けがの通院、看護と予防接種・健康診断しか適用されませんでした。今年度の4月からは、感染症の学級閉鎖、卒入学式や子どもとともに参加する学校、保育所等の行事にも適用が拡大されています。

子どもとともに参加する学校、保育所等の行事には「授業参観」「運動会」等も当てはまる(小学校卒業までの子ども対象)ことが、府教委の「学校職場における勤務条件等(制度解説)令和7年度版」にも明記されています。

他府県からすればまだ、不十分ですが、拡大した権利、制度を積極的に周知して、教職員が活用できるようにすることが重要です。

※ 市費職員、講師については、学級閉鎖、卒園・入学式への拡大があるものの、府費教職員に比べ一部で年齢が限定されるなど、適用に違いがあります。



## 府労組連 みんなの声を集め、組合による交渉で変えていこう 府はすべての教職員の、給与、権利や制度の改善を

### 教職員の給与、権利 毎年の組合の交渉で決定されます

学校の教職員の多くは府から給与が支給され、権利制度が適用される府費負担教職員になります。

そのため、給与や権利制度の改善については、教職員の組合と、府職員の組合がともに「府労組連」を結成して、一緒になって、府庁の代表と交渉しています。

長年の府労組連の要求や交渉の取り組みの結果、講師の採用試験受験への職免適用、子の看護休暇の拡大をはじめとして数えきれない成果を積み重ねてきています。

職場の声をもって要求しなければ始まりません。より強力な交渉をするために、多くの教職員の力を合わせる事が何より重要になっています。

### 今年度の要求書提出、夏の交渉に向けて

府労組連としての毎年の交渉として夏と冬に大きな交渉が行われます。

公務員の給与や権利制度の見直しは、国の人事院が民間の毎年の動きを見て、夏ごろに国家公務員の給与や権利制度の見直しを、政府に「勧告」して、政府がそれをもとに具体案を作成します。

教職員が含まれる地方公務員は、この国の人事院の勧告が元になって、大阪でも人事委員会が府の状況をもとに「勧告」を出して、これをもとに府が見直し案を作成し、組合との交渉を受けて、原案を決定、最後は府議会で最終的に決定されます。

勧告や秋の交渉に向けて、1学期に要求書を提出し、夏の交渉で職場の声を府当局や人事委員会に声を集めて届けていくことが、重要になってきます。

### 中堅、ベテラン層にも十分な給与引き上げを 安心して働ける、教員負担軽減、必要な人員確保を

昨年度の給与引き上げでは、初任者が月2万3千円以上が4月にさかのぼって引き上げられました。

一方中堅、ベテラン層の引き上げ幅は、物価の高騰、親の介護費用負担、子どもの教育費負担、老後の生活資金準備といったお金の心配が集中する世代にもかかわらず、極めて限定されたものでしかありませんでした。

拡大する教員不足で、2人分3人分の仕事や責任をこなしている中堅、ベテラン層を置き去りにするような対応はあってはなりません。

また、すべての教職員にとって、教員不足や多忙化の要因となっている、業務負担の軽減を抜本的に進め、現場の教員数の拡大でゆとりをもたらすことは、緊急の課題といえます。

### 府人事委員会への署名、一言要求を職場から広げましょう

府労組連では、府人事委員会あての「全ての職員・教職員の大幅な賃金引き上げと職員教職員の増員につながる勧告を求めます！」署名に取り組むことを呼びかけます。

組合員以外の教職員も含めて、署名に、職場の実態や教職員の切実な要求、声を寄せて、府の人事委員会に、要求にこたえるような勧告を出すように求めていきましょう。

右のQRコードから、署名、一言要求に取り組めます、ぜひご協力をお願いします。



### 我々の給与・権利・制度の 決まり方

国の人事院が政府に「勧告」

↓ 国家公務員の給与、  
制度の見直し

府の人事委員会で「勧告」

↓ 人事院勧告参考に、府の状況  
を調べて、府の「勧告」

組合と府で見直し案の交渉

↓  
府が議会に提案して上決定

# 暴力行為・闇バイト 「気持ちが言葉にできない・わからない」 人間関係考える取り組み、国語教育の充実で変化が

なぜすぐに手が出て暴力に訴えるのか、なぜ簡単に犯罪に手を染めてしまうのか？どうしてオンラインカジノにのめり込み、周りに相談もできずに破滅の道に進んでしまうのか？

こどもたちの暴力行為、若者の犯罪や闇バイト、オンラインカジノなどのギャンブル依存症など、様々な問題に、周りとの関係づくりや国語教育の充実で変化を生み出す小学校などの取り組みが紹介されています。

(クローズアップ現代「ヤバい・エグい」は危険!?注目される感情リテラシー」4/16放送)

## 闇バイト少年 共通する「自分の気持ちがわからない」「言葉で伝えられない」

闇バイトなどの犯罪経験のある少年受刑者へのアンケート・インタビューで、多くに共通する「自分の気持ちがわからない」「気持ちを言葉で表現できない」という特徴が明らかになっています。

- 「(犯行時)何も思っていない。感情はないですね。人に申し訳ないという気持ちも浮かばなかった。」
- 「小さいときから感情を押し殺して感情がない状態で、自分はポーカロイドに近いと思いました」
- 「親の意のままに、こたえなくちゃいけない、操られていると感じ。泣きたいときに泣けない。」

小さい時から「やばい」「ウザイ」などでしか気持ちを表現できず、自分をコントロールできない、感情を出していいんだ、出しても関係が崩れないと安心して感情を出せることがなかったと専門家は言います。

## 「やせ細る」、周りの大人たちの向き合い方、人間関係が大きな影響

また、「自分が今どんな状況に陥って、どんな問題を抱えているのかということうまく表現できない。自分を理解して考えようとしていない」と言います。

「誰かに悩みを相談する」ことを「ほとんどしない」「まったくくない」受刑者が半数以上(57%)に上りました。「自分の感情というのは、他人に話している中で気づいていく。まず答えてもらわなければ、信頼しなければ、相手に何も言わないし、自分の感情も相手の感情も踏み込まない」と専門家は言います。

## 少年たちの心の隙間に入り込む、簡単に闇バイトに引き込まれる手口

闇バイトでは、若者を引き込むとき、「信頼関係」「悩みや弱みをとことん聞き出し、こちらから話をしない」「つらかったんだね、寂しかったんだね」と共感、安心させることがポイントとされています。

リクルーターだった受刑者は「親身に相談に乗ってあげると、本当に面白いほどホイホイついてくる」「よっぽど周りに相談できなかったんだと思いますね」と少年たちの姿の振り返ります。

専門家も「気持ちがわからないだけではなくて、そもそも信頼できる相談相手が周りにいないというのが大きな特徴」と解説しています。

## 重要な視点・ヒント 大人たちの向き合い方、受け止めてもらえる関係性

かつて校内暴力でケガをする子どもが年間100人を越えたこともあったという大阪市立南市岡小学校では、国語教育の充実を力を入れることをはじめとした、気持ちを言葉で表現して伝えられる取り組みを展開して、校内暴力が激減したと言います。

番組では国語のスイミーの授業で様々な場面の登場人物の気持ち。感情を言葉で表現したり、想像する取り組みを紹介。

また、泣きながら嫌な思いを訴えてきた1年生に、共感してあげながらその気持ちを言葉に置き換え、相手に伝わるように寄り添いながら励ます先生の姿も紹介。そのほかにもアサーションなどにも取り組み、人間関係の中で思いを伝えたり相手の気持ちを理解する取り組みも紹介しています。



1年の担任の先生は

- 「気持ちを言葉にすることができるようになることで、気持ちを伝えあったり、たがいの気持ちに折り合いをつけられるようになった」
- 「自分が訴えたことに対して近くの方がやってくれたということに分かれば、本当に困ったら自分のために何かしてくれる人がいるんだということが1つ経験として重なります」と単にスキルトレーニングにとどまらない関係づくり、大人の向き合い方が重要と振り返ります。

## 大人社会、学校現場に問われる

人材育成の「資質・能力」の教育か、人間としての成長・つながりをはぐくむ教育か 企業が求める人材としての「資質・能力」ばかりの授業、教育活動が進められる一方、人間や人間社会の基盤が大きく損なわれていないのか懸念されます。

「聞いてもらうということが大事、自分の言うことに応答してくれる人がいるということが大事で、自己肯定感が上がるし、相談しにくいんだけど、相談してこうという気持ちを引き出すことができる。」

少年刑務所の専門官の言葉からも、子どもたちが、言葉にはできなくても、本当に求めていることは何なのか、今一度立ち止まって考える必要があります。

## 第2回まなび庵 5月31日(土) 10:00 「つながる国語の授業～個性を生かす仕事～」

講師 松山幸路さん(船橋小)

枚方市総合文化芸術センター別館 第5会議室

資料代300円 どなたでも参加できます。当日参加歓迎

資料代 300円

申し込み QR⇒



## 大阪教文センター教育実践講座

6月14日(土)13:30 たかつガーデン

算数 楽しい単元導入プラン・ゲーム、手作り教材

講師 何森真人さん(数学教育協議会)

6月15日(日)13:30 たかつガーデン

図工 ネックレス等の作品実践講座 物語の絵の実践報告

講師 峠 綾香さん、岸上三重さん(美術教育の会)

資料代500円

どなたでも参加できます。当日参加歓迎 詳しくはこちらから ⇒

